

# デッキの概念を変える

## 車両乗り入れ可能なデッキシステム

### ケーワンシステム

住宅のみならず、非住宅分野でも利用の広がりを見せるデッキ材。近年は、商業施設だけでなく、文教施設でも土地の有効利用のために、デッキスペースを設けることが多くなっている。そのなかで、デッキ材の性能も変化している。

北海道を中心に二重床の供給、施工を行い万協フロアーの特約店でもあるケーワンシステム(札幌市、原田慶一社長)は、同社オリジナル商品のK1デッキ

システムに、文教施設での利用を考慮し安全性を高めたウッドデッキシステム「文教Playタイプ」を追加。2018年は、これをさらに強化し車両乗り入れの需要に対応した「文教Playタイプストロング5t」を開発し、販売している。

この元となる文教Playタイプは、ZAM鋼製床下地と人工木で形成するウッドデッキに、体育館の性能として求められる床の適度な硬さと柔らかさを



5トンの車両乗り入れも可能にした新デッキシステム

取り入れたデッキシステム。

安全性を考慮し、転倒時や、常時利用によるけがを減らすため緩衝効果値を考慮している。特徴として、適度な弾力性を持たせ、同デッキ上で運動してもけがの少ない環境を提供できる。

これを強化し、車両の乗り入れも可能にしたのが文教Playタイプストロング仕様。ストロング仕様は、支持脚に万協フロアーパイルポルトを採用。パイルポルトを使うことで、圧縮強度が高まることが試験で証明されている。

また、車両乗り入れ試験も行っている。同試験では、普通車両、ワゴン車、2トトラックのほか、救急車などの緊急車両を想定した車両荷重で総積載荷重量の5tまで耐え得る性能がある。

同商品について原田社長は「文教Playタイプは、体育館などの文教施設で利用が高まっている。これらの施設では災害時も含め、緊急車両の乗り入れなども考慮した設計が行われている。デッキ市場では、人の重量を考慮した商品は多かったが、このような車両乗り入れの要望も考慮した文教Playタイプストロング5tを開発したことで、より幅広い分野での利用が見込まれる」と語る。

同社では、性能の高いデッキシステムを独自に提供し、新たなデッキ需要を取り込む。同商品に対する問い合わせは、同社(電話011・631・6111)まで。